



平成27年7月1日発行

第13号

京田辺市観光ボランティア

ガイド協会 広報部編集

☎ 0774-68-2810

## 平成27年度事業計画について

今年度の事業計画は、今まで進めてきた観光協会との連携行事への参加、自主企画事業の拡大、自治会・学校・地域社会との連携事業の3本柱を継続して進めます。特に、今期は京田辺市観光協会の一般社団法人化に伴い、京田辺市産業振興課や観光協会と我々ボランティアガイド協会との関係が変化すると予測されます。それに伴って、我々もそれに対応できる組織に変革していくことを目指します。今期は①京田辺市の特産品(玉露、田辺茄子、海老芋等)の紹介を上手く取り入れる方策、②京田辺市域を核とした新しいガイドルートの開拓、③新会員が持っている情報、ノウハウを今後の活動にどう生かすか。これらを今年度の事業計画に導入し具現化すべく力を注いでいきます。



平成27年度 第8回定期総会

ガイド力の向上、すなわち、知識と手法については昨年引き続き研修部の座学、管内、管外研修などを通じてより一層のレベルアップに努めてまいります。

(代表 園上雅晴)

## 市民参加の研修会

### 3月4日「三山木廃寺と五大明王」研修会

3月4日(水)京田辺市中央公民館大ホールにて市民59名の参加を得て「三山木廃寺と五大明王」と銘うって講演会を開きました。講師に京都府山城資料館資料課長 田中淳一郎先生をお招きし、お話を聞かせていただきました。

五大明王は中央に不動明王、東に降三世(ごうざんぜ)明王、南に軍荼利(ぐんだり)明王、西に大威徳(だいいとく)明王、北に金剛夜叉(こんごうやしや)明王の五体の明王のことで、各々の特徴とその役割、また、いつ頃出現したか(7世紀頃)など、詳しいご説明をいただきました。

京田辺市におられる五大明王は、現在は正福寺に不動・軍荼利・大威徳の三明王像、壽寶寺に降三世・金剛夜叉の二明王像が客仏として安置されています。



正福寺の不動明王像

明治以前は恵日寺(廃寺)にあった五大堂にそろって祀られていた像であったとの事など、貴重な話を聞くことができました。

最後に参加者から多くの質問が寄せられ好評のうちに終了しました。

(新井)

## ボランティアガイド日誌

### 2月11日 JRふれあいハイク冬号

#### 「観音寺の竹送りと京田辺のかぐや姫伝説」

JR三山木駅8時集合。立春過ぎの早朝、遠くは神戸市からの参加者を含め54名の方が、4班に分かれ出発しました。普賢寺ふれあいの駅へ着くと大根焚きが始まっており、参加者は大根とあげに舌鼓を打ちました。竹送りの道中安全祈願が行われる大御堂観音寺では、お水取りの真竹を並べ読経後それに祈願を墨書し、山城松明講社員と参加希望者が担ぎ御堂出発を見送りました。

この後、古墳の上に建立され御祭神の一柱が大友皇子である山崎神社に立ち寄り、竹取翁博物館に向かいました。館長から京田辺市がなぜ「か

ぐや姫の里」なのかをユーモアたっぷりにご説明

頂き、別館かぐや姫館  
で昼食をとりました。古

代交通の要衝山本驛

旧跡を見て、壽寶寺を

訪れ日本に三体しかな

い実際に千本の手を持つ十一面千手千眼観音立

像(平安時代後期・重文)を拝観し、陰影の様により

りその顔が変化するのに一同驚嘆しました。伝

統の行事や観音さまの顔を拝観し、皆さま満足

され全員無事JR三山木駅に到着し解散しました。

(三枝)



観音寺から竹送りの出発

## 2月26日 生駒「寿会」ガイド

今年、秋に約40人で京田辺を歩く企画の下見  
に来られた生駒「寿会」の3名をガイドしました。

当日は終日の雨、しかも寒い日で、ズボンは濡  
れウインドブレーカーも中までぐっしょり濡れて、  
風邪をひきそうな大変な日になりました。

三山木駅で待ち合わせ、自己紹介後、壽寶寺へ、  
そこから山本の驛社、畦道を歩いて飯岡丘陵へ  
昨岡神社の説明、ガイド仲間が作成した地図を使  
って古墳群を説明。薬師山古墳で飯岡と玉露を説  
明し、草内の昨岡神社と草路城跡、法泉寺へと案  
内しました。防賀川の堤防道の風情を喜んでい  
ただきながら新田辺駅へ案内してお別れしました。

案内は大層喜ばれ、次回のガイドのご指名まで  
頂きましたので、雨の中のつらいガイドも報われ  
ました。(園上)

## 2月28日 大学まちづくり政策フォーラム

第9回全国大学まちづくり政策フォーラム in 京  
田辺が6大学13チームの参加により同志社大学ロ  
ーム記念館で開催されました。フォーラムでは参  
加大学生がチームを結成し、本市を調査研究して  
学生らしい自由な発想で考えた政策を発表する  
ことになっています。その調査の一環として市内  
バス見学会に同行しガイドしました。

初めに南部地域の普賢寺、UR都市機構が土地  
区画整理事業を進めている同志社山手の住宅団  
地、三山木地区の土地区画整理事業を見学し、ふ

れあいの駅や三山木駅周辺の今後の発展などを

説明しました。次に中部地域に向かい、京田辺市

役所を經由し、一休寺では下車してご住職から説

明を受けました。次に北部地域に向かい、大住ヶ

丘、花住坂、松井ヶ丘、山手地区の住宅団地を見

学。住宅団地の高齢化などの状況、山手地区の第

二京阪道路のパーキン

グエリア、関西国際空

港などへの高速バス、J

R学研都市線による交

通の利便性などを説明。



第二京阪道路

ついで色々な業種の工場等が集積立地している

大住工専拡大地域を案内しました。その後中部地

域の中核拠点であり、市の中心でもある新田辺駅

前にむかいこの地域の状況を説明した後解散。

学生らしい柔軟な発想による政策提言がまと  
められることを期待したいと思います。(竹村)

## 4月4日 JRふれあいハイク春号

### 「野花と桜並木に古代の憤怒五大明王を訪ねる」

3月4日の研修会を受けて、五大明王の仏像と  
その社寺をめぐるハイキングを開催しました。正  
福寺と壽寶寺の憤怒の五大明王像の迫力に参加  
者から賞賛の声が上がりました。

今回は春のイベントでしたので、ハイキングの  
途中で春の野草の案内を行いました。来られたお  
客様は、まず、京田辺市の自然豊かなコースに感  
激しておられ、その案内の中で草花の説明をしま  
したが、思った以上に春の野草に興味をお持ち  
ただけ喜ばれたようでした。ただ歩くだけでなく、  
その中でいろいろなテーマを設けて説明した今  
回の方法が非常に好評でした。(田原)

## 4月27日 桃園小学校 古墳の野外勉強会

桃園小学校6年生102名による恒例となってい  
る社会科の現地勉強会として京田辺市岡村にあ  
る車塚古墳(チコンジ山古墳)で古墳についての  
説明会を行いました。

現地に到着する前に地内山池(サンマ池)の堤  
防に全員を集め、左に愛宕山、右に比叡山が見渡  
せて、又、南塚古墳、車塚古墳が目の前に見える

絶好のポジションに案内しました。あいにくの黄砂で遠くの山がぼやけていて残念でした。

車塚ではガイドメンバー4名で現地勉強会と説明を行いました。なにぶん100名を超える人数のため、知人に協力を頂いてスピーカーを設置して説明を行いました。



熱心に勉強

古墳の大きさ・種類・意味・時代などを説明し、併せて事前に先生の了解を得て、継体天皇の筒城宮と、最近松井で発見された70基の横穴古墳についても触れました。

説明後、二班に分かれて前方後方墳の前方より登り、墓があったと思われる所でも説明しました。

後日、先生より見せて頂いた生徒さんの感想文に「京田辺に天皇の宮があった事を知り大変面白かった」とガイド冥利につきる感想を頂きました。

(柳生)

#### 4月29日 JRふれあいハイク春号

##### 「ふるさと風景の残る山里に新緑と花々を訪ねる」

JR三山木駅9時15分集合、参加者は近畿一円から96名と多くの方に参加いただきました。

薄曇のハイキング日和に恵まれ、高船までバスで移動しウオークを開始しました。



極楽寺でご住職の説明

最初の極楽寺ではご住職から説明を聞き、石船神社、瘡(か)神社、干鉾山、8千万年前の花崗岩と2百万年前の堆積地層が出ている不整合、三国境と歩き、朱智神社で昼食をとりました。

午後は、眼下に広がる山城や奈良方面の景色、無二荘ボタン園の満開のボタンやツツジ、道端に咲く「ヒメトコソウ」「朴ノガ」 「材ノガリ」等の可愛い草花のほか、大変珍しい「ウツリマユ」を眺めながら最後観音寺、筒城宮伝承地を経て16時頃 JR同志社前駅で解散しました。

途中、高船加工センターとふれあいの駅で手

作り味噌や手作りパン、野菜等の販売を楽しみ、各ポイントではガイドの説明も熱心に聞いていただきました。約13kmと長距離のコースでしたが全員元気に完歩され、多くの参加者から「楽しいウォーキングになりましたありがとうございました」とのお礼の言葉をいただきました。(足立)

#### 5月16日 宇治茶歴史街道ウォーク

##### 「玉露の産地京田辺で茶畑と玉露を楽しむ」

京田辺駅に参加者57名が集合、曇天で時折小雨の降る中、準備体操の後、2班に分かれて出発。まず壽寶寺に案内、重文の十一面千手千眼観音立像を拝観、その立派な姿に感銘されてました。山本驛、鶴沢の池、飯岡の渡し、飯岡昨岡神社を案内、家並みを通り急な階段を少し息を切らして登り薬師山古墳に到着し、山の上からの景色を楽しみながら小休止。周りには黒い寒冷紗で覆われた茶畑の風景が広がっており、玉露の栽培・製造工程などの説明を行い、続いてゴロゴロ山古墳、穴山梅雪の墓、飯岡車塚古墳、草内昨岡神社、草路城跡、法泉寺の重



寒冷紗で覆われた茶畑

文の十三重石塔・寺名の由来を説明しました。

12時過ぎに中部住民センターに到着。早速、日本茶インストラクターから美味しい玉露の淹れ方を教わりました。丁寧な指導助言を受けながら、湯の温度によって変わる玉露のうまみと味わいを楽しみ優雅なひとときを過ごしました。

昼食後、珍しい大和棟の大徳寺を見学し、平和堂で開催中の一休品展にご案内して解散。

日本遺産に「日本茶800年の歴史散歩」が認定されたこともあり、お茶に関連するウォークを一層充実すべきと感じました。(西村)

#### 5月18日 ときめき72会のガイド

一休寺、酒屋神社、観音寺、筒城宮伝承地碑の見学の指定を受けて、男女15名の方々をご案内しました。

京田辺駅11時出発ということで、すでに照り返しの強い一休ロードを避けて選んだ棚倉孫神社の

境内の古木の緑陰や土手の道は大好評、次いで神南備寺では、寺の縁起もさることながら耳石の御利益により一層関心を寄せられたのは、みなさま72歳という年齢故でしょうか。

去年は71会、来年は73会と変わるというこの会は、堺の高校の3年の時のクラスのお仲間の会とか。堺ということもあって、神功皇后と住吉大社、一休禅師、南宗寺、家康の伊賀越えの話で大いに盛り上がりました。

酒屋神社から観音寺までの道は少しお疲れになったようでしたが、無事全員最後まで歩かれました。また、一休寺の副住職、観音寺の住職自らの説明を聞いたことを大変よろこばれていました。

新緑吹き抜ける風の爽やかな一日、心ときめくばかりの高校3年生たちを、まぶしく2年生がお見送りした時は4時を少しまわっていました。(大内)

### 『シリーズ：玉露のはなし ①』

#### ◎幼い時の、お茶の思い出

未っ子であった私が、もの心ついた時には、父は第一線の職場を退いていました。

そして、出来た余暇は読書や野菜作り、庭の手入れなどに費やし、一服するときは急須で玉露や煎茶を、時には抹茶を点てて、甘いお菓子とともにいただくのを楽しみにしていました。

居間の父の座には黒塗りの茶櫃が置かれ、鉄瓶にはいつもシュンシュンと湯が沸き立っていました。黒塗りの菓子器には和菓子「大極殿」がおさまっていました。

お茶がなくなると、宇治田原の得意先まで、リュックを背負って買い出しに出かけました。

私がお菓子を目当てに父のそばに行くと、お菓子だけではなく、必ずお茶を飲まなければなりませんでした。

お茶を飲むと、口中に広がった甘さが程よくやわらぐのを感じていた私は、和菓子とお茶、とりわけ和菓子と玉露や抹茶のセットは嫌ではありませんでした。今でも和菓子と共にごいただく玉露や抹茶は、まさに、お茶としての最高の到達点ではないかと考えています。

とりわけ、この玉露はどのようにして創られてきたのでしょうか。

#### ◎玉露の発祥について

宇治市小倉の公民館の前には、昭和45年に小倉茶業会によって建立された「玉露発祥の碑」が建っています。



玉露発祥の碑

碑には「～玉露は天保六年六世山本嘉兵衛翁が小倉木下吉左衛門の製茶場にて試作し、江戸に持帰り「玉の露」と銘名して諸侯伯に贈り賞賛を博せしに始まる。その後小倉江口茂十郎苦心の末これを完成し「玉露」の名を以って売出したるが、喫茶家の嗜好に適し、其の需要全国に広まる～」とあります。

このように、製茶場の現場で、どちらかというところ偶然に創生されたのも、ひとつの事実でしょう。しかし、いろいろな製茶場でこのような発見なり、創生があったのではないのでしょうか。宇治茶の生成、発達の経過や歴史を考える時、創生されるべき必然性があったと考えるのです。

次回はその必然性の歴史を探っていきたいと思います。(春)

#### 今後のJRふれあいハイクのご案内

平成27年9月26日(土)

#### 『初秋の甘奈備山から平安京を望む』

JR大住駅 9:00⇒虚空蔵堂と滝⇒甘奈備山頂⇒(一休寺)⇒JR京田辺駅 15:00頃  
歩程 約9Km 参加費 300円 雨天中止

\*お弁当(600円)ご希望の方は予約時に。

#### 今後の観光研修会のご案内

平成27年9月12日(土)

#### 『塔の話(塔に魅せられて)』

講師 京都産業大学客員研究員 中江好喜先生  
～塔の歴史・種類等を国宝を参考に説明～  
場所 中央公民館 10:00～ 参加費 200円

\*お問い合わせお申込みは観光案内所まで。

Tel 0774-68-2810 Fax 0774-68-2817  
e-mail:info@kyoutana.be